

I 事業の概要（地域の実情含む）

本学区は、前須賀海岸や荒神海水浴場等を擁する船越湾に面しており、自然環境に恵まれていた。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災津波の大打撃により、校舎1階・体育館が全壊した。学区もかなりの被害を受け、家族を失ったり、家屋等を流出したりし、仮設での生活を余儀なくされる児童も多くいた。平成24年2月、被災3県初の新校舎が完成——4月から新校舎での生活がスタートし、現在に至っている。

児童は、日々変化していく復旧・復興の様子を見ながら登下校している。新しい家が立ち、地域に戻って生活を再開した人もいる。

人と関わり合いながら、地域の環境や状況に応じた教育活動に取り組み、郷土への愛着と誇りを育成したい。

II 取組の概要

1 地域の自然環境を保全する教育活動

【海浜植物再生活動に参加しよう】

東日本大震災後の防潮堤建設工事で消失する恐れがある砂浜の植物を守ろうと、前須賀海岸で希少植物の移植などに取り組んでいる。岩手県立大の島田准教授と学生の皆さんの指導のもと、5月に同海岸の植物を種から育て、10月には砂浜に戻した。児童は、震災により身近にある地域の自然も大きなダメージを受けていたことを知り、再生活動に意欲的に取り組んでいる。



4年：砂浜の植物観察会

2 地域産業である漁業体験により、郷土への愛着と誇りを育成する教育活動

【漁業体験等を通して、地域産業を知ろう】

鮭稚魚の飼育・放流活動、水産加工体験、養殖体験、定置網体験、新巻鮭作りなど、全学年が地域の主力産業である漁業体験に取り組んでいる。「鮭」については、1・2学年で飼育放流するだけでなく、5学年で郷土料理作り、6学年で新巻鮭作りと食についても関わりを持たせている。また、4・5年生で、船越湾と山田湾の漁業を体験し、山田町全体の漁業の理解につなげている。体験活動は、地元漁家・婦人会の皆さんなど地域の方々のサポートが大きく、漁業関係者の皆さんの苦労や工夫等、肌で感じながら、地域を知り、見直す貴重な機会となっている。



4年：牡蠣の種挟み込み体験

- ・カキの殻に穴をあける時、大変でした。押して穴をあけたので、力がいりました。どんなことをしているのか、もっと聞いてみたいです。
- ・ホタテについているカキの赤ちゃんを縄につける作業をしました。このカキが大きくなるといいなと思いながら作業をしました。（4年児童）



5年：定置網体験

3 様々な災害のメカニズムを理解し、自他の命を大切にす教育活動

【災害について知り、自分の命を自分で守る方法を知ろう】

- ・国交省釜石港湾事務所の方々をお招きし、東日本大震災津波の被害状況や津波のメカニズムを教えてくださいました。後日、海の防災施設を洋上から見学し、理解を深めた。
- ・震災以降、交流を続けている秋田県大館市立長木小学校との合同授業は、当時本校の校務員であり、適切な判断で児童の命を救った田代修三さんを講師に実施した。「命の授業」と題し、当時の様子や命を守る知恵をお話しいただいた。また、教室を出て、実際に避難した経路等も教えていただいた。
- ・山田町危機管理室の方々をお招きし、出前講座を実施した。様々な自然災害の被害と対策、非常持ち出し袋の準備、避難場所と避難所等、自分の身を守るための学習を行い、実践に生かす学びとなった。
- ・岩手県立宮古工業高校の生徒さん達による津波実演会を実施した。津波がどのようにして発生するか、学区はどのように波にのまれるか模型を使って見せていただき、恐ろしさを実感した。東日本大震災津波だけでなく、過去に起きた津波についての発表もあった。



5年：命の授業



5年：津波実演会

船越湾と山田湾の両方から津波が押し寄せ、波は前須賀付近で渦を巻く様子を見ることもできた。

4 復興の様子を「見・聴・感」し、写真として残し、伝える教育活動

【山田町の復興の様子を写真で切り取ろう】

県の事業である「景観学習」に取り組んで2年。今年度は、5月は学区内、11月は山田町の中心部と2回の写真撮影を行った。11月は、復興の進捗状況等について山田町役場で説明を受け、庁舎屋上に上り、中心部を一望した。その後、新生やまだ商店街の被害状況や復興までの道のりとその思い等を語り部の方からお伺いする時間を設けた。普段見ている景色や物の見方に発見が生まれた。



6年：景観学習

「復興を感じる景観」

工事車両が多く、工事中的場所がいっぱいあります。今の状況では、どんな建物が建つか分からないけれど、少しずつ建物が増えていくのが楽しみです。(6年児童)

5 平成23年度卒業生が作詞し、宮野幸子さんに作曲いただいた「明日へ」を歌い継ぐ教育活動

【「明日へ」を歌い継ぐ】

歌「明日へ」が完成して8年が経つ。

全校児童は、作詞した先輩の「思いや願い」を想像しながら歌い、震災を語り継いでいる。この歌は、本校児童だけでなく、保護者や地域にとっても大切な歌になっている。あの時の恐怖や不安、悲しみだけでなく、人と人が助け合って前に進むことで、輝く未来があることを教えている。この歌を歌う児童にも、児童の歌声に涙する人たちにも、元気や勇気を与えている。

今年度は、学習発表会、葛巻町立五日市小学校・秋田県大館市立長木小学校との交流会、世代間交流会・明日へ集会(3.11集会)・卒業式の発表だけでなく、「いわての復興教育」児童生徒実践発表会で合唱する機会をいただいた。作詞した卒業生や作曲した宮野幸子さんの「思いや願い」を県内外の多くの方々に届けることができた。

「明日（あした）へ」

作詞：山田町立船越小学校
平成23年度 6年生
作曲：宮野幸子

- 1 悲しみが 心細さが あふれた
あの日の記憶とともに あふれた
いつも 考える 未来のこと
いくつも思い出 にぎりしめ
明日を生きよう そう叫んだ
一歩を進めば 新しい夢に会えるね

きつときつ きつときつ
夢は叶うよ
うつむいてちゃ 何も変わらない
顔をあげて ほらふみだそうよ
きつときつ きつときつ
進んで行ける
明日を信じて 未来を切り開くんだ
- 2 太陽が 安心感が てらした
前進という言葉が てらした
いつも 感じてる 友の思い
乗り越えられる 君となら
友と歩こう そう誓った
一歩を歩めば あたたかい時に会えるね

ずっとずっと ずっとずっと
支えているよ
さあ一緒に 立ち止まらないで
手をつないで ほら歩んでいこう
ずっとずっと ずっとずっと
心は一つ
明日もぼくらは 一人ぼっちじゃないんだ

もっともっと もっともっと
みんなの笑顔
ぼくの町に あふれるといいな
希望乗せて 明日をつないで
もっともっと もっともっと
輝く未来

明日は今日より 輝いているはずなんだ
輝いているはずなんだ



Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 東日本大震災津波による被害が自然「砂浜」にも及んでいたことを知り、再生のために自分達のできることを進んで行おうとする態度が育った。
- (2) 地域の主力産業である漁業を体験することを通して、地域を見直し、地域を大切にしようとする思いが深まった。
- (3) 東日本大震災津波以降も頻発する様々な自然災害の脅威を知り、日頃の備えや自分の命を守るための行動について考え、実践しようとする意識を高めることができた。
- (4) 景観学習は、語り部ガイド等のお話を伺う機会を設けた後に撮影を行ったことで、新しい視点で街を眺めたり、見慣れている景色から新たな発見をしたりできた。地域の人たちの復興までの道のりや復興にかける思いを感じながら、児童一人ひとりが復興の様子を写真に切り取ることができた。
- (5) 震災当時の様子やそこにいた先輩（作詞した6年生）たちの思いを想像しながら、「明日へ」を歌い継いでいる。学年が進むにつれて歌詞に込められた気持ちを豊かに想像したりすることで、歌に深みも増してくる。また、この8年間、様々な場での合唱発表により、保護者や地域の方にとっても大切な歌になってきている。
- (6) 多くの地域の方々やたくさんの関係機関の皆様のご協力をいただきながら、学習が進められている。児童は、自分達のために一生懸命に教えてくださいさる「よりよい人たち」と関わることで、他人を思いやる心やたくましく生きるための知恵を学んでいる。

2 課題

- (1) 年度ごとに、ねらいにそった取組内容であったか見直しを行い、改善していく。
- (2) 小学校6年間を考え、関連を持たせた取組内容にしていく。
- (3) 地域・関係機関との連携をさらに深め、ご協力いただく方の意見もお伺いしながら、学習を展開していく。
- (4) 学習のまとめとなる「発信」を意識した取組にしていく。ご協力いただいた方々にも、児童の学びを感謝と共に伝えていく。
- (5) 山田町教育委員会地域コーディネーターの活用も、さらに積極的に進めたい。